

被災地支援 学生5団体 紹介

中央大学には被災地を支援する学生団体が5つある。夏休みの活動計画などをまとめた。

■団体名

「はまぎくのつぼみ」

▽学生代表者 石山英美子(文4)

▽問合せ先 石山代表

E-mail:chuo.hamagiku@gmail.com

Twitter @chuomiyako

▽教職員顧問 小室夕里准教授(法)

▽活動地 岩手県宮古市(市の花・はまぎく)

▽活動理念

①つながりの創造=人と人との人間らしいつながりを第一に考え、様々な活動を実施します。

②継続的支援=支援を通じてできたつながりを絶やさないよう継続的な活動を行います。

▽過去の主な活動

夏休み宿題解決! お助け隊 2012年7~8月に5カ所の仮設住宅談話室にて実施。仮設住宅や近隣住宅に住む子どもたち(小中学生)のべ25人が参加。

▽2013年夏休み活動計画

「夏と一緒に活動するメンバーを募集しています。日程は8月6~8日、8月8~10日の2クールを予定しています。1クールのみでの参加も可能ですし、2クール通しての参加ももちろん大歓迎です。

活動内容としては、学童クラブでの夏休み中の運営支援と仮設住宅集会所での住民の皆さんとの交流会を考えています。昨年から引き続きお世話になっている施設と仮設住宅ですので、宮古の皆さんも中央大学の私たちが訪れることを楽しみにしてくれています。

昨夏、学童クラブでは子どもたちの夏休みの宿題をみたり、小学校のプールへ一緒に行ったり、校庭で鬼ごっこやサッカーなどをしました。昨年は初めてのかかわりということもあり、学童クラブのプログラムに従って動いておりました。今年はメンバーの皆さんと話し合っ、こちらから子どもたちに、学んで遊んで楽しいプログラムの提案ができればと考えております。

また、仮設住宅ではお母さんたちが集まって行っている手芸のお手伝いをさせていただきました。お母さんたちの作品ができあがる工程を見せていただいたり、こちらが作り方を教え

るという形でミサンガを一緒に作ったりしました。今年はお母さんたちの作品を中央大学で販売することを見据えてデザインの提案をしたいと考えております。

一人でも多くの方の参加をお待ちしております」

■団体名

「はまらいんや」

▽代表学生 白倉隆之介(法4)

▽連絡先 白倉隆之介

shiranosuke0315@gmail.com

▽教職員顧問 中澤秀雄教授(法・地域社会学)

▽設立の経緯

一昨年11月、法学部中澤ゼミの主催で初めて気仙沼市面瀬(おもせ)地区を訪問。その後、学生部主催の冬ボラ・春ボラでも活動。より学生主体で活動が出来るよう、昨年5月に学生有志団体の形に移行。

▽団体名の由来

「はまらいんや」とは気仙沼地方で話される「～ませんか」という意味の方言。一緒にやりましょうというニュアンスがあり、私たちの団体にぴったりと考え、団体名に用いることに。

▽活動の理念

①人と地域と暮らしに焦点を当てた「人間主役」のボランティア。

②住民の方々の、今日を「生きる力」になる。

▽活動地域

宮城県気仙沼市面瀬地区・面瀬中学校仮設住宅内集会所。

▽主な活動実績

①お茶会の運営②仮設住宅の訪問③住民データの管理・整理④支援物資の仕分け・配布⑤集会所に来訪された方々との語り⑥集会所の清掃・庶務。

▽活動で得られること

私たちは、ボランティアを「自己成熟」の機会ととらえ、ただ何となく活動するのではなく、自分なりの目的意識と目標を設定しながら活動を行っています。そうすることで、活動が終わった後に成長を実感することができます。

被災地支援 学生5団体 紹介

▽2013年夏休み活動計画

「8月下旬と9月中旬に行う予定です。現地までは活動初日の前夜に夜行バスで7時間ほどかけて向かいます。活動の拠点となる集会所に着くとちようどラジオ体操をするために集まった住民の皆さんにお会いできるはずで、そこから初日の朝が始まります。

日中の活動の前後には、現地に常駐するボランティアスタッフとのミーティングを行い、目標設定と振り返りを毎日します。そのもとで私たちが日々行うのは、主にスタッフの指導のもとの仮設住宅の訪問、お茶会に入らせていただくことでの住民の方々とのふれあいです。東京から来た私たちが、震災で住居を失ったために新しい場所での生活を送らなければならなくなった人々と接するとき、とても多くの課題にぶつかります。それは自身のコミュニケーションや思考のような個別の課題に始まり、仮設住宅・被災地域の課題、他の地域でも当てはまるような社会的な課題など様々です。それらを学び、議論し、深めていくことが私たちの活動のテーマです。

また、私たちの活動にはもう一つの大きなテーマがあります。それは、住民の方々の『日々を生きる力』となることです。簡単にできることではありませんし、できているかもわかりませんが、現地へ赴くことで『忘れていない』ということ伝え、学びを未来に生かすことが、その一助となれば、と考えます。その思いのもと、今年の夏も活動します」

■団体名

「面瀬学習支援」

▽代表 市川洋司(文3)

▽連絡先 4j.1kw0127@gmail.com

▽教職員顧問 中澤秀雄教授(法・地域社会学)

▽活動地 宮城県気仙沼市面瀬地区

▽活動理念

- ①学校とも家庭ともちがう子どもたちのための場をひらく。
- ②これからの気仙沼・面瀬の担い手として子どもたちを育む。

▽活動方針

気仙沼を考える上で、被災の経験は貴重なキーワードです。被災経験をもつ子どもたちだからこそ芽生えた想いを大事にしながら、彼らが地域の良さを知り、地域について考える手伝いをします。

▽これまでの活動実績

2012年度＝春休み・夏休み・冬休み。学校の宿題のお手

伝いや遊びを通じた交流。

2013年度＝春休み、学習プログラム『子ども気仙沼学』の実施。

▽2013年夏休み活動計画

「8月上旬に宮城県気仙沼市面瀬地区での活動を予定しています。対象となるのは、小学生を中心とした地域の子もたちです。学校とも家庭ともちがう、子どもたちが集まってのびのびと過ごせる場を開きます。そこには友達のように友達ではない、彼らより少しだけ年上の私たち大学生がいます。私たちはその特別な空間の中で、子どもたちの様々な姿を見つめています。そして、彼らのような未来の気仙沼を担う子どもたちに、自分の家の周り・面瀬地区・気仙沼…それぞれの魅力をもっと知ってもらいたいと考えます。子どもたちが楽しみながら、身の回りにある良さ——豊かな自然、文化、人と人とのつながりなど——を知ることができるようなプログラムを、地域の方々の手を借りながら企画・運営します。

活動中、面瀬の子もたちはこんな言葉を口にします。『仮設住宅の人たちを元気づけたい』『震災があつて少なくなった笑顔を、取り戻したい』『震災はあつたけど、今は支え合つて暮らしているんだよ』。そこには、震災がなかったら芽生えなかったような大切な思いが散りばめられています。そんな彼ら自身の言葉や姿から、もしかしたらあの日のことをプラス方向につなげられるかもしれない、ということを学びました。震災から2年5カ月を迎えるとき、未来を担う子どもたちに何を伝え、自分たちが何を学ぶか、それぞれにとってよいものとなるような充実した活動を目指します」



■団体名

東日本復興支援団体『チーム次元』

▽代表連絡先 鈴木貴士(総政3)

takasinobu1009@gmail.com

▽連絡先 oshima.v@gmail.com(団体アドレス)、

「チーム次元」で検索するとブログ、

HPが閲覧可能。

▽協賛 公益財団法人電通育英会

▽活動目的

いまだに多くのボランティアを必要とする宮城・気仙沼大島へ学生の派遣。多くの学生に被災地を訪れてもらい、気づき・学習の場を提供。

▽活動場所 宮城・気仙沼大島

▽活動内容

①漁業支援＝牡蠣や帆立の養殖を行う漁師さんのお手伝いなど。

②教育支援＝大島の中学生を対象にした学習補助。

▽活動日程

金曜日の深夜に東京・新宿を出発、土・日活動し、月曜日早朝に新宿着(休日を利用した活動)。

▽2013年夏休み活動計画

「夏休み期間中も複数クールを設け、宮城県気仙沼大島において震災復興支援を行う予定です。1クール5名程度で大島に宿泊し、島の方々のニーズに合わせて、彼らが震災の被害から自立する手助けになるような支援を行います。震災から2年以上が経った今、がれきの撤去などといった目に見える震災の被害に対しての活動はありません。やっと収穫までこぎつけた牡蠣や帆立の養殖のお手伝い、学習塾へ通うことができなくなってしまった島の子どもたちへの学習支援、大島の特産品である椿の栽培のお手伝いなど、島の方々が前に進むための支援や震災による見えない被害に対しての活動を行います。また、海水浴場百選の特選に選ばれた小田の浜の清掃など、観光部門の補助となるような活動も行う予定です。このような復興支援活動を通して、今被災地が抱える問題は何かを自分で見て聴くことで少しでも被災地の現状を知ってもらおうきっかけとなれば良いと考えています。

大学生の夏休みを利用して被災地に足を運び、今自分にできることは何かを考えてみませんか？ テレビや新聞などでは知りえなかったことが見えてくるはず。皆様の参加をメンバー一同お待ちしております」

■団体名

復興支援団体「和みの輪」

▽代表 西 宏明(法3)

▽連絡先 hiroaki.nishi.go@gmail.com

▽活動場所 福島県相馬市

▽活動実績

2011年12月・ボランティアツアー(宮城県七ヶ浜町)、2012年3月・相馬市での継続的な復興支援活動を開始。同年6月・震災復興ビジネスプランニング(八王子市学園都市センター)、物産展(中大生協)、同年末・「和みカフェ」プロジェクト発足。同カフェは相馬市大野台仮設住宅内にてオープン予定。昨年12月、仮設住宅内全戸ヒアリング完了、現在は「和みの輪」を中心に運営計画を策定、「地域コミュニティの再建→孤独死ゼロ」へ。

▽2013年夏休み活動計画

「夏休みの期間を使って主に3つの事を進めようと考えています。活動は毎週土・日に行う予定です。

1つ目は、現在福島県相馬市にある大野台仮設住宅で進めている『大野台プロジェクト』を詰める事です。『大野台プロジェクト』は、震災から2年以上が過ぎ、居住率がますます減っている仮設住宅を、暮らしやすく、活気あふれるものにしようというコンセプトで進めているもので、仮設住宅内に、コミュニケーションカフェや仮設商店街を作ってしまうというものです。このプロジェクトは、和みの輪が行った大野台仮設住宅約1000戸の全戸訪問を行う中で必要性を感じた『人と人の交流の場』を作るために立ち上げました。

2つ目は、『大野台プロジェクト』の前段階として、大野台仮設住宅内でオープンカフェを開く事です。予定では、隔週の日曜日にカフェを開きたいと考えています。

3つ目は、9月1日に相馬市で開催するイベントの運営とその準備です。現在、東北3県に伝わる昔ばなしや、震災直後の話を紙芝居にしよう、というプロジェクトが現地で進められていて、その紙芝居を広めるためのイベントを和みの輪が企画する事になりました。今回のイベントでは、紙芝居をより楽しんでいただくために、歌手の方などをお呼びする予定です。当日の運営も和みの輪が中心となる可能性が高いので、スタッフとして手伝っていただける方を募集します。

長くなってしまいましたが、これだけ多くの活動をしようとしているのは和みの輪にいる12人のメンバーです。圧倒的に人材が不足していますので、手伝っていただける方を募集しています」